

## 令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	55	学校名	静岡県立相良高等学校	校長名	小塩 宜浩
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自律した生活習慣を確立し、他者の心情や立場を尊重することができる豊かな人間性を持った生徒を育成する。	規律ある生活習慣を確立している生徒90%以上	校則遵守98.5% 挨拶心掛け95.9%	A	○服装について、生徒各自が気を付けて生活できた。挨拶は自然に出てくるようになった。 ○自分の将来に向け、どう行動すべきかと自覚を持った生徒が多かった。 ○毎日の体調を生徒本人がWeb上で報告し、生徒の体調を職員全体で把握した。 ○朝食調査を行い、生徒への健康の啓発を行った。
		交通事故件数5件以下 自転車指導カード交付枚数100枚以下	交通ルール・マナー等の遵守94.4% 自転車指導カード交付枚数49枚	B	○交通事故件数は3件となった。 ○自転車指導カード交付枚数は目標を大きくクリアできた。次年度からは改正道路交通法に適応させるため、新たな対策を考えたい。また、交通事故報告書の記載基準が曖昧なため、今後検討したい。 ○委員会の生徒を中心に自転車のマナーについて呼びかけを行った。
		自己肯定できる（自尊感情が持てる）生徒70%以上	学力・技能向上の実感(授業)89.0% 自分の良いところを自覚81.9%	A	○体育祭や球技大会など生徒主体で運営ができた。 ○行事や委員会等を通して自らの役割を認識し、責任を果たすことができた。
		部活動等各種活動に熱心に取り組んだ生徒90%以上	諸活動への積極参加93.8%	A	○部活動やサークル活動に、積極的に取り組んでいる。 ○各部活動が活性化し、生徒の自己肯定感を高め、主体性が身につけてきている。
		いじめアンケートを年3回、個人面談年3回・保護者面談年1回実施	アンケートを毎学期（計3回） 個人面談を毎学期（計3回） 保護者面談年1回実施。	B	○面談を通して生徒の困りごとや不安を把握、SCにつなぐなど適切な対応ができた。 ○相談室の開放など相談しやすい雰囲気づくりに努めた。
イ	基礎的知識や技能(技術)を習得し、学習成果を積極的に活用する態度を身に付けるとともに、探究的な学びを深	週5日以上家庭学習等に取り組む生徒50%以上 動画配信教材の利用率80%以上	授業時間外学習への取組23.0% 動画配信教材の利用100%	B	○単元テストの細分化によって学習を促した。 ○生徒の興味関心を引く授業を展開することができた。動画等を利用し、理解を深めることができた。

<p>め、実践を伴う課題解決学習を促進する。</p>				<p>○スタサプを効果的に活用できていない。 長期休業中の課題は指導したが、年間を通じた課題指示が不足している。</p> <p>○家庭学習の時間を確保するためには、教員側が課題を課していかなければならない。家庭学習を増やすうえで、教科のバランスと量を見極めていく必要がある。</p> <p>○年間を通じて家庭学習に取り組むことができる課題を提供することができた。</p> <p>○長期休暇の課題として動画配信教材を使用した。未提出の生徒に関しては再提出まで行い、ほぼ全ての生徒が利用した。</p> <p>○授業内で動画を利用するなど、動画を活用した授業を行った。</p> <p>○動画配信教材については授業の中で全員一斉に視聴してもらい、生徒からもらった指摘から今後より良いものにしていく手がかりを得ることはできた。しかし現状は作成した動画を生徒が有効活用するには至っていない。</p> <p>○授業（実習）をきっかけに自主的に家庭学習を行っている生徒が増えた。</p>
	<p>主体的に探究活動に取り組んだ生徒80%以上 全生徒に発表する機会を設ける</p>	<p>探究活動への意欲的な参加 84.7% 全ての生徒が発表する機会を設けた</p>	A	<p>○地域をテーマに自らの課題を設定し、情報収集や整理を行いながら、課題解決に向けて粘り強く取り組んだ。</p> <p>○調査、実践したことをスライドにまとめ、資料の構成や図表の使い方を工夫し、聞き手に分かりやすく伝えることを意識して発表できた。</p>
	<p>到達度テストの結果が向上した生徒50%以上</p>	<p>到達度テストの結果を検討するための基準が複数あり、比較が困難であった。</p>	B	<p>○到達度テストに向けての働きかけが弱く、受けて終わってしまった。到達度テストの意味を学校全体で理解し、継続した指導が必要である。</p>
	<p>授業改善に向けて授業を工夫した教員70%以上 教員授業見学年3回以上</p>	<p>授業改善を意識した教員90.9% 授業見学を年2回実施</p>	A	<p>○「行きたい学校づくり」事業や校内研修により、改善意識を高く持つことができた。生徒の学習状況の改善につなげたい。</p>

		授業や探究活動にICTを積極的に活用した生徒90%	ICTの積極的な活用79.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒がChromebookを効率よく活用するためにOffice365を導入した。</li> <li>○教員がICTをより多く活用し生徒に還元できるようにするために、アンケートを実施しおススメのアプリ、Webの情報を共有した。</li> <li>○「行きたい学校づくり」事業を効果的に活用し、さらにICT活用を促進したい。</li> </ul>
		「SCH地域活動相高プロジェクト」参加生徒延べ数1,000人以上	地域活動への参加意欲71.3% SCH参加生徒延べ数1005人	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生は進路を意識した参加が多かった。継続して参加する者も見られた。</li> <li>○牧之原市の竜巻被害者支援に多くの生徒が参加し、意欲的に活動できた。</li> </ul>
		年間読書数3冊以上 探究活動で達成感を感じた生徒80%以上	読書3冊以上50.1% 読書への興味42.1% 探究活動での達成感80.4%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の活字印刷物離れは深刻。教科学習やHR活動の時間を活用し、読書への興味関心をもたせること、読書量を増やすことに繋げていきたい。</li> <li>○多言語への興味を持たせるような蔵書を生徒に勧めたり、実際に読む機会を提供したりする必要があった。</li> <li>○授業内で新聞を活用するなど活字の媒体に触れることで、読書への興味につなげることができた。</li> </ul>
ウ	進路指導体制や指導計画の充実を図り、早期からキャリア教育を実施することで、生徒一人ひとりが主体的に進路を選択していく能力を育成する。	進路目標達成のために、3年間継続的に努力できた生徒80%以上 各種検定に挑戦した生徒150人以上	進路目標達成の努力91.2% 各種検定に挑戦した生徒210人	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字検定に挑戦した生徒は40人、前年度より受検者は少なくなった。</li> <li>○英語検定に挑戦した生徒は4人、来年度は検定が進路にどのように影響があるのかを授業を通して生徒に伝え、校外でも受験する生徒の数を増やしたい。</li> <li>○商業科の3年生110名、普通科キャリアコースの2年生46名が検定試験にチャレンジした。3年生ではより難易度が高い日商簿記検定2級にチャレンジする生徒もいた。</li> </ul>
		本校の進路指導に満足している生徒(3年生)80%以上	進路指導満足度93.5%	A	○個別指導・面談の成果が表れている。
		希望進路への合格率90%以上	希望進路への合格率99%	A	○自己探究の成果が表れている。
		年度内就職内定	年度内就職内定	A	○自己探究の成果が表れている。

様式第3号

		率 100%	率 100%		
エ	保護者や地域等との連携や交流をとおして、生徒の教育環境の充実を図るとともに、地域から信頼される学校となるための取組を推進する。	本校の教育活動に満足している保護者 80%以上 学校見学会 4回以上 オープンスクール 1回以上 SNS 投稿数 150 回以上	学校生活満足度 87.8% 学校見学会 5回 オープンスクール等 2回 SNS 投稿数 144 回	A	○授業の満足度を高められるよう努めた。 ○広報活動などを通して子供たちの活躍を十分に伝えることができた。来年は広報活動により力を入れていきたい。 ○授業で連携している方地域の方々の要望を受け、授業で関わっている生徒だけでなく、対象を全校生徒に広げ、SCH活動として地域の方々との交流の機会を増やすことができた。
		校内防災訓練 3回以上 地域防災訓練参加率 80%以上	校内防災訓練 3回 防災講話 1回 地域防災訓練参加率 62.9%	A	○校内防災訓練や防災講話は、地域の状況を考慮しながら適切に判断し企画・運営することができた。次年度の防災講話は自衛隊に依頼予定である。 ○訓練の目的をより明確に示し、参加生徒に防災・減災への意識高揚を図りたい。 ○地域防災訓練は、暑さ対策のため一斉開催から地域ごとの分散開催へと形態を変えた。次年度からは情報収集や広報案内をその形態に合わせた方法をとる必要がある。
		「教育相談だより」年 3 回以上発行 資質向上のための職員研修年 3 回	教育相談だより年 2 回発行 教職員研修年 5 回実施	B	○悩みを持つ生徒や困り感のある生徒の把握や教員間の情報共有ができてきている。 ○教育相談、養護教諭、SC が連携し、ケース会議により指導力向上がみられた。
		清掃活動を通して環境美化を意識することができた生徒 90%以上 学期に 1 回安全点検	清掃活動への取組 97.8% 安全点検を毎学期（3回）実施	A	○美化委員を中心に教室の美化環境向上を呼び掛けるなど、生徒中心の活動を行うことができた。広い校舎の美化環境の維持が課題である。
		事務室は充実した教育活動が行えるように支援していると回答する教職員 80% 物品の現物確認等 年 1 回	事務室による支援の充実 100% 物品の現物確認等 年 1 回	A	○限られた予算の中で教育活動に必要な物品購入、修繕等の支援を行った。また、物品の現物確認は 6 月に実施した。物価高騰に対応するため、予算執行に関して節約・工夫が欠かせないものとなっている。
オ	協力し合える教職員組織づくりに努め、資質向上や働き方改革を進	勤務時間管理システムの利用による自己管理	勤務時間管理システムの利用率は 100%	B	○年次有給休暇取得 10 日以上は、それぞれの教職員の立場や仕事内容が異なるので、全員達成は難し

<p>めることで、円滑な学校運営を実施する。</p>	<p>100% 夏季休暇取得率 100% 年次有給休暇取得10日以上 業務改善に向けて工夫した教員 70%以上</p>	<p>夏季休暇取得率 100% 年次有給休暇10日以上取得率 53.1%</p>	<p>い。 ○勤務時間管理システムの利用は定着しているが、教職員による業務量の差がある。システムを活用し、自分自身の勤務時間を意識すること、業務の平準化を目指して再度組織を見直す必要がある。 ○教科の垣根を越えて、教員同士で授業を始めとした業務への取り組みを協力して行った。また、休暇を取りやすい雰囲気が本校にはあるため、安心して周りの人に仕事を任せたり、引き受けたりすることができる。 ○業務改善に向けて、業務記録の作成を継続した。教科や分掌で実施した業務を記録し、時期や業務に要する期間を把握することで来年度に備えている。</p>
	<p>やりがいをもって仕事のできた教員 70%</p>	<p>やりがいや張り合いを持って仕事のできた 86.4%</p>	<p>○やりがいを持って仕事のできたと思えるようにするには、校内での役割を決める際の工夫が必要である。 ○特別教室の学習環境を整備した。不用品を処分し、必要な物品を購入した。 A ○行きたい学校づくり推進事業をはじめ、新しいことに積極的に挑戦していこうとする先生方と力を合わせて業務に取り組むことができた。 ○ICT活用やNIEへの取り組みなど、授業改善に努めることができた。</p>
	<p>信頼できる先生がいると思う生徒 70%</p>	<p>信頼できる先生の存在 86.3%</p>	<p>A ○体罰・セクハラ調査による訴えはゼロであり、保護者を含めた生徒と教員の関係は比較的良好である。 ○生徒思いの行動をする先生方が多く、保護者や生徒との信頼関係を築く土台となっている。</p>